

ヴォーリス 来日100周年 記念特集

知事の給料と同額、校長の1.8倍！ ヴォーリスの高給が示す 商業教育への熱意

明治38年、ヴォーリスはこの学校の英語教師を迎えられたが、記録によると、ヴォーリスの給料は県令(知事)の給料と同額で、校長の1.8倍、一般教師の4.5倍という高額だった。そればかりか、専用の料理人も付けられていた。つまり、それほどまでにこの学校には力が注がれたのである。

今なお校歌に息づいている 当時の近江商人の心意気

この頃、制定された校歌からは、鎖国が解かれて海外に雄飛せんとする近江商人のはちきれんばかりの心意気がうかがえる。これは今も八幡商業高等学校の校歌として歌われており、高校の校歌としては全国でも1、2を争う古いものとなっている。右記はその3番の歌詞である。



最初のバイブルクラス(八幡神社境内にて)ヴォーリスは後ろから2列目左から4人目。前列右端に一人だけ学生帽でない帽子を持っているのが、宮本文次郎か？宮本は学校を卒業したばかりであったが成績優秀のため、そのまま英語教師として活躍していた。初期のころのヴォーリスの通訳。



ヴォーリス建築設計事務所より提出された八幡商業学校の設計図(その後変更あり)



ヴォーリスと成長したバイブルクラスの教え子たち
吉田悦蔵・村田幸一郎・佐藤久勝・宮本文次郎・古長清丸

八幡商業学校・校歌 -第3番-

印度の珠玉アラビアの
香も集めん南洋の
珊瑚琥珀も欧の西
送ら道や幾万里
潮と共に舟を駆る
貿易風の名もよしや

作詞:土井晩翠 作曲:東京音楽学校

【インドの宝石やアラビアの香料、そして南の海のサンゴやヨーロッパのコハクを買易して買い集め、何万里という遠いところだがこれを送ろう。海流に乗り、船に帆を張って風に乗って行こう。この風は貿易風と言うが、なんと良い名であろうか。】

文明の光に ピカピカ輝いていた ヴォーリス

さて、ヴォーリスは着任早々から大変な人気で、自宅を開いたバイブルクラスには45人もの生徒が押しかけた。これはキリスト教布教に対するヴォーリスの固い決意によるものであったことは当然ながら、加えて、アメリカよりはるばるやって来たヴォーリスから、少しでもアメリカの文化や文明を学びたいというも生徒達の本音であった。それをうかがい知る資料として、在校生の1/3が将来アメリカに行きたいという希望を持っていたことが当時の進路調査の記録に残されている。また、日本の医療事情が不安定だったので、ヴォーリスは多くの薬を持って来ており、これが欲しいために来る者もあったと記録されている。



現存する近江商人の屋敷(近江八幡市新町)

さらに、同僚の先生達も、ヴォーリスのためにコックが作る洋食を楽しむに来る者もあったという。ヴォーリスは宗教問題が原因で、わずか2年で教師を免職となったが、彼はその後も日本に留まり、商業学校の卒業生である吉田悦蔵と共に、建築家として、実業家として、社会事業家として活躍したことは周知の通りである。

共に国際人だった 近江商人と ヴォーリス

話は変わるが、明治までの江戸幕府の下では、藩は半ば独立国に近く、習慣も言葉も大きく異なっていた。庶民が他藩に移住することは許されず、旅行するのでさえ現代の我々が海外旅行をするよりはるかに難しい事だった。こうした中、近江商人は藩の国境を越え、北は北海道から南は九州まで商いに掛けた。つまり、国境を越えて突き進むという点で、ヴォーリスと近江商人には共通点があり、価値観を共にしていたのである。おそらくこれが宗教的な問題を乗り越え、この町がヴォーリスを受け入れる大きな力となったのではなかろうか。ヴォーリスが商業学校や町の人々に与えた影響は少なくないが、逆に「陰徳善事」や「三方良し」の商業倫理観を確立していた近江商人もまた、24歳の青年ヴォーリスを育むには充



外国人教師による英語の授業(八幡商)

分だったと考えるべきである。今日、CSR(企業の社会的責任)と言われる点において、ヴォーリスと近江商人は十分共感するところがあったことは疑う余地が無い。つまり、そうした共感があつたからこそ、ヴォーリスは教職を追われたにもかかわらず、終生、八幡商業高校と、そして近江八幡の人々と固い絆で結ばれた。建築設計の事業に成功したヴォーリスは、校舎建て直しの際には多額の寄付を行い、自らも設計に携わったのである。現在の八幡商業高校の建物はヴォーリスの設計によるものであり、その玄関には、ヴォーリス建築独特の重厚でやさしい雰囲気漂っている。天井まで貫く大きな石柱、黒い石作



玄関から伸びる廊下(八幡商) 撮影協力/八幡商業高等学校

りの手すりの緩やかな階段などから、今もこの玄関を通る者にヴォーリスの人となり伝わってくる。

ゆが 歪められた 現代社会の 商業教育

今日、八幡商業高等学校はこうした大きな歴史を背負いながらも、社会の流れに押され、平凡な一県立高校として甘んじている。しかし、この学校がかつての勢いを取り戻すことを多くの県民・市民が望んでいることは疑う余地は無い。問題は日本の商業教育が抱えるところに通じており、深刻である。かつて全国にたくさんあった商業学校は、現在その数を減らし、反対に大学の商学部、経済学部が格段に多くなっている。その多くは建前として、学問に力が注がれ、実業の養成はかつての商業学校と比べるべくもなく、お粗末なことが多い。これまでの社会の学歴偏重の弊害が、本来の商業教育を歪めていると言えるかも知れない。120年前、「商業は実業であり、学問は必要ない」と商業学校の創立を歓迎しなかった当初の近江商人の嘆きが今、現実となっているような気がしてならない。

本来、ビジネスは 人格、感性、直感が 備わっていてこそ 成り立つ

ビジネスは本来、「読み書き計算(そろばんではない)」「簿記などの商取

引の技術」は言うまでも無く、「対人マナーや弁論による、人とのコミュニケーション」「店舗や商品に対するデザイン感覚」「マーケティング感覚」「商取引の倫理観、道徳観」…など、人格、感性、直感が備わっていてこそ成り立つものである。学問的な分析力もこれが前提でなければ活かされることはない。このように考えてみると、大勢として普通科から大学に繋がる今日の日本の商業教育はあまりにも心配であり、



活発なクラブ活動(八幡商)

っていきけるのだろうか?…心配は尽きない。たとえば今、商業教育の流れを、商業高校→大学の商学部・経済学部→MBAと言うようにイメージしてみると、実業と学問が連続してきて、これまでの八幡商業高等学校の教育が、急に大きな光となって見えて来る。一方、こうした教育論とは別に、言葉も習慣も全く異なる日本で、そして民族意識の強い日本で、第二次世界大戦という極限状態を乗り越え、ヴォーリスが建築や製菓の事業に成功して来た事を思い出してみると、根本は人格であり、他人に対する思いやりである事に気付かされる。ヴォーリス来日100周年を期に、もう一度、これらのことを心に銘記しておきたいと思う。

出典/写真集「日本人を越えたニホン人」
文/山田脩治

くわしくはこちらから ▶gaido.jp/0375



パソコンを使った情報処理の実習(八幡商)

中国の台頭を背景にしたこれからの華僑の活躍に充分に対応していけるのだろうか?…MBA(経営学修士)を持たない大企業の社長になれないと言われるアメリカのビジネスマンに対等に向き合



▲ヴォーリスはピアノやオルガンの演奏に優れていただけでなく、作詞や作曲の才能も発揮した

W.M.Vories Forever



昭和55年から14年間、教師生活の中で最も長い期間を、私はここ八幡商で過ごしました。その間、創立100周年には、生徒たちがヴォーリスさんのことを一生懸命に調べ、その成果を教室に展示していたことを思い出します。わが校にヴォーリスさんがおられたのはわずか2年ですが、今

も校舎のいたるところに、そして卒業生たちの心の中に脈々とヴォーリススピリッツが流れているように思います。これからも、その精神を大切に、新しい近江商人を輩出できるよう努力してまいります。

滋賀県立八幡商業高等学校
校長 正田 勝司

ぎ

っ

し

り

Shiga MAIKO
http://www.shiga-maiko.com

お父さん世代の携帯&メールはじめて講座

メールを使おう
受信したメールを眺んでみよう
届いたメールに返事を書こう
相手のメールアドレスを登録しよう

電話をかけよう
電話帳はこんなに便利
まずは日本語入力覚えよう
電話帳に登録してみよう

写真を撮ろう
カメラの準備をする
写真を撮って、メールで送ろう
メールとカメラのQ&A

情報を利用しよう
サイトには役立つ情報がいっぱい
ニュースを見よう
おすすめサイト紹介

**ひと目でわかる
イラスト操作一覧**

**基本の
操作・知識を
やさしく
解説!**

**電話・メールの
疑問に答えるQ&A**

今日から使える携帯メール入門
通話・電話帳機能を使いこなす
実は結構おもしろい、写真付きメール

好評発売中! [毎日ムック] 定価600円 毎日新聞社
お求めは、お近くの書店、または毎日新聞販売店で